

8月30日～9月5日は「防災週間」

鳥羽市では、8月30日～9月5日を「自助」「共助」について考え、行動していただく期間とします。

「防災の日」である9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、台風シーズンを迎える時季です。昭和34年9月26日の「伊勢湾台風」によって大きな被害を被ったことなどから、地震や風水害などに対する心構えを育成、防災意識を向上させるために、「防災の日」は創設されました。また、毎年8月30日～9月5日は「防災週間」として、全国各地で防災関連の行事が実施されています。

「自助」・「共助」のすすめ

鳥羽市では、南海トラフ大規模地震の発生が懸念されています。地震の発生を防ぐことはできませんが、日ごろから備えておくことで、被害を少なくすることができます。

また、大きな災害が起こった場合、被害が市内の各所で同時多発的に発生することが想定されます。このようなとき、行政機関や消防機関の活動である「公助」には限界があるため、市民のみなさんも自分自身や家族の命を守るため、「自助」や「共助」が重要になってきます。

自助 自分の身は自分で守る

- ・最低3日分の食料・飲料水の備蓄
- ・非常持ち出し袋の準備
- ・家の耐震化
- ・家具の固定
- ・家族会議を行う（避難経路の確認、安否確認の方法など）
- ・とばメールなどの情報配信メールへの登録、情報収集



共助 地域や隣近所で助け合う

- ・自主防災組織の活動への参加
- ・防災訓練の実施、参加
- ・災害時に援護が必要となるかたを町内会、自治会、事業所などで協力して支援



公助 市役所や消防・警察による活動

- ・救助活動
- ・支援物資の提供
- ・市民への情報提供 など



総務課防災危機管理室



(25)

1118

一人一人が備えてこ！
防災力UP！鳥羽

vol.4

4～5歳のころが、空想的な夢であるのに対し6歳のころになると、とても現実的な夢を答える割合が増えるそうです。そして、夢を実現するための条件として「大きくなれば」「ご飯をいっぱい食べれば」と成長を挙げるのが4～5歳の子どもに多く、6歳では「練習すれば」「勉強すれば」と日々の努力を条件に挙げ

幼児期の夢は無邪気なものが多いですが、どんな夢でも決して否定することなく応援してやることで、その心は明るい未来へ向かっていくことでしょう。それはきつと、もっと現実的な思考ができる年齢になった時でも同じです。そういった経験をして育てば夢や希望を持たない若者にはならないのかもしれない。

4～5歳の子どもたちに夢を聞いてみました。「サッカー選手」「仮面ライダー」「ケキ屋さん」といった回答が多かったです。このころは夢と言うより今なりたいものという感じなのでしょう。彼らは、なりたいものの真似をしてごっこ遊びを満喫し、日常的にそれになりきって楽しんでいます。とても微笑ましい様子ですね。

子どもが多いそうです。もう6歳にして、現実に近いしていくのかと少し寂しい気もしますが、成長と共に夢も変化していくのですね。ところで、「今の若者は夢や希望が無い」とよく言われます。しかし、最初から夢がなかったわけではないと思います。彼らも、幼いころには何かに憧れ、夢を持っていたのではないのでしょうか。

Vol.27



「子どもの夢」

みんなで子育て
だっこで
ほっと

子育て支援センター

☎ (25) 7221